

2018年4月20日

鹿児島県知事

三反園 訓 殿

川内原発1号機の燃料棒破損問題に関する質問および要請

とめよう原発！かごしまの会

代 表 平良 行雄

(事務局・連絡先) 井上 勇治

TEL : 090-5084-0281

貴職におかれましては、日頃より県民のいのちと暮らしを守るためにご奮闘されていますことに敬意を表します。

さて、去る4月5日付の新聞その他のマスコミによって、昨年3月から続いてきた川内原発1号機の一時冷却材のヨウ素濃度上昇の原因について、「一部燃料棒の破損が原因であることが明らかとなった」と報じられました。私たちは昨年10月、県内の反原発団体とともに、ヨウ素濃度上昇の原因究明とその対策を講じるよう、九州電力に対して申し入れを行いました。これに対し九州電力は、「現時点において原因は特定されていない。上昇量は基準より非常に小さく問題はない」とし、「今後の推移を見守っていく」と、非常に無責任な対応でした。さらには、「原因究明のために運転を一時停止し総点検すべきではないか!」との私たちの申し入れを無視し、今年1月の定期点検まで運転を続けました。今回の燃料棒の破損は、一つ間違えば大事故につながる可能性を秘めており看過するわけにはいきません。私たちは、本日付で九州電力に対し、今回の問題に対する九州電力の無責任な対応と、安心・安全に対する認識の甘さに断固抗議し、問題発生の経緯についての質問と再発防止を求める緊急の要請を行います。

一方、県民のいのちと安全を守る立場にある貴職におけるましても、今回の問題は原発の安全性について疑問を投げかけるものであり、看過できない問題と認識されているものと思います。

つきましては、再発防止の観点から、貴職に対しまして下記の内容について要請させていただきますので、文書にてご回答くださいますようお願い申し上げます。

記

<質問>

1. 今回の問題について、マスコミ報道の前に九州電力側から説明がありましたか。
2. 説明があったならば、その日時はいつですか。
3. 県への説明とマスコミ報道との内容は同じでしたか。

4. これまでのヨウ素濃度の推移を見れば、少なくとも、一昨年の定期点検（特別点検含む）後の再稼働から間もない昨年3月には問題が発生しており、その時点で原因究明を行う必要があったと考えますが如何ですか。
5. 九州電力は、「老朽化で固定力が弱まり、燃料棒が細かく振動したことなどから…」と説明していますが、一昨年の熊本地震の影響があったと考えられませんか。
6. 貴職は、「熊本地震の影響はなかった」とする県専門家委員会の結論を受けて、「九州電力に対して強い対応を取る必要はない」と表明されました。今回の問題を受けて、『その判断は拙速で問題があった』と考えられませんか。

＜要　請＞

1. 今回の問題は、県民の安全・安心を脅かす重大な問題であることから、県の専門家委員会の議題として取り扱っていただき、問題発生の原因を検証し、二度と同様の問題が発生しないよう、具体的対策を議論していただくこと。
2. 原子力安全協定に基づき、上記の結論を九州電力に対してキチンと求めていただくこと。
3. 今回の問題を教訓に、今後発生する様々な問題に対しては、即座に運転を止めて総点検し、必要な対処を行うよう、九州電力に対して改めて強く求めていただくこと。

以上